
天使の梯子

N澤巧T郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使の梯子

【Nコード】

N3435A

【作者名】

N澤巧T郎

【あらすじ】

空に憧れる少年と、なにか訳ありの少年が話をしている。

「空を、飛びたいな」

突然、彼は言った

少しおどろいて

「どうしたんだい？いきなり？」

と、答えた

「この空を見なよ」

ゆっくりと上を見る

眩しくて目が細目になる

青い

どこまでも青い

青過ぎる

すると彼は何かあきれているような口調で言った

「飛びたくなるだろ？」

たぶん彼は、この空の美しさにあてられてしまったみたいだ
僕は、少し時間を空けて答えた。

「……知ってるかい？空つてのは、とても冷たいところなんだよ」

すると彼は信じられないような口調で言った

「うそだ〜い。太陽に近いんだからあったかいに決まってるらあ〜い」

僕は失礼とわかりながら少し微笑んでしまった

彼の素直な心がそうさせたのかもしれない

「…………寝っ転がってごらん」

僕はそう言っただの字になって寝っ転がった

それを見て彼もゴロンと寝っ転がった

新緑の匂いと、大地の匂いがする

思わず深呼吸をする

なによりとても

「ポカポカだね〜」

彼はほへ〜つとした顔で言った

だから僕もふへ〜つとした顔で言った

「だろ？この広大な大地が太陽を体一杯で受け止めてるからこんなにあつたかなんだ。空には太陽を受け止めるものがないんだよ」

彼はすぐには答えなかった

すこし経ってから彼は何かひらめいたみたいでとても嬉しそうに答えた

「でも、雲があるじゃないか」

指差した向こうから雲がモクモクと立ち込める
いつしか空に青は消え、灰色の雲が覆い始め

「ん？雨だ」

「ハ、ハ、ハ、ハツクシユツ！！さ、寒う！！」

彼が寒そうだ

なんとかしなくちゃ

「あの樹の下へ行こう」

力強く根を張る大樹へ向かう

決して真っ直ぐではない

だけど、確実に空を目指して伸びている

「全っ然あつたかくないじゃないか」

彼はぷりぷりと怒っている

どうしよう

「それは雨だからしかたがないって」

当たり前なのいわけしか出来なかった

案の定彼はぷりぷりしながら言った

「でも、雲の上はいつも晴れてるんだろ？それに太陽の光が降り注いでこないってことは、雲がちゃんと受け止めてるってことだろ？
だったら、雲の上のほうがずっとポカポカしてるんじゃないの？」

僕はゆっくりと、ゆっくりと何かが湧き出てくるみたいに変な感じ

に陥った

僕は今の自分の状態がよくわからなかったけど、何か答えなくちゃ
と思い答えた

「……そうだね…… そうなのかもしれない。空にいと大地の暖か
さはわからない。それと同じで、地上にいないと空の温かさはわか
らないのかもしれないね」

彼がそう言つと薄暗い世界から雨粒が大地にぶつかる衝突音が消えた
雲が動く

雲の隙間から太陽の光が大地に突き刺さった

「それじゃあ、行こうか」

彼は突き刺さった光の前に立ち言った

次々と雲から太陽の光が大地に突き刺さっていく
暗い緑と明るい緑の様相が見渡す限り続いていく

「どこへ？」

彼は人差し指を一本立て、ゆっくりと上に持っていく

「空へ」

眩しい。

彼を見ていると、安心してついて行ける。

ボクはそう思った

さっきまでの大雨のように降り注ぐ光芒に手を掛け、足を掛け
そして、登り始める

一歩一歩を確かめながら
心躍らせながら
僕らの未来のように輝く
大空へ

t H e
E n D

(後書き)

雲の上に行くまで結構時間かかるだろうなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3435a/>

天使の梯子

2011年10月3日02時14分発行